



暖かな陽の光とともに、小さな虫や草花を見かける季節となりました。

いよいよ卒園という思いと共に小学校へ進学することに期待をもちながら、お兄さんお姉さんになる喜びを感じて過ごしました。

今月に入り、卒園式の練習が始まると式の雰囲気緊張しながらも日に日に流れを覚えて真剣な表情で取り組む姿が見られました。証書を受け取る際には、一人一人の真剣な眼差しに、この1年の成長を感じました。



3月になり、子どもたちは少しずつ卒園することを実感している様子でした。「小学校行くん楽しみやな〜」「でも、みんなに会えなくなるん寂しいな」と友だちとの別れを寂しがる子もいました。

今月は、残りの園生活を友だちや保育教諭と十分に関わって過ごせるように、出来るだけ子ども達の好きな遊びを中心に、みんなで遊べる集団遊びや自由遊びをして過ごしました。自由遊びでは、それぞれ違う考えを子ども同士で伝え合うことで遊びが発展していき、より遊びの内容が深くなっていきます。保育教諭に頼りっきりになるのではなく、子どもたちが主体となり、自分たちで考えながら自立して遊んでいる姿を見て、本当に、この1年での成長を感じました。こども園生活を通し、遊びから沢山のことを学び、成長することが出来たと思います。



3月から始まった卒園式練習では、卒園式の意味や、卒園証書をもらうことの大切さを伝えてから、練習に臨みました。卒園式の大切さを理解した子どもたちは、真剣な表情で練習に参加し、流れを覚えると自信を持って取り組んでいました。正しい姿勢で長時間座ったり、証書をもらう細かな手順を覚えたりと、大変なこともありましたが一人一人が緊張感をもって行うことが出来ました。

この1年、いろんなことに興味を持ち、挑戦してきました。体操教室で教わった縄跳びフラフープ、跳び箱、鉄棒は一人一人が目標をもって取り組めるようになったり、友達と競いあったり、それぞれの遊び方で楽しめるようになりました。ハサミや糊を使った制作では、「こんなんにしよ」「こっちの色がいいかな?」と少しずつ自分でイメージをして作れるようになり、自分で作った物に愛着をもって大切にできるようになりました。

4月当初は、年長児という実感がなく、お集まりでのお当番活動では中々声を出すことが出来なかった子どもたちでしたが、園の行事を通して少しずつ年長児という自覚をもって、過ごせるようになりました。



## ぞうさんおめでとう

きりん組のみんな、ご卒園おめでとうございます。みんなと過ごしたこの1年間毎日がとても楽しく、時間が過ぎるのもあっと言う間でした。いろいろな経験をしてたくさん成長した姿を側で見守ることが出来て幸せでした。

今年度も、コロナウイルスの影響があり、行事にも制限があった1年でしたが、そのような状況の中でも一つ一つの行事に真剣に取り組む、笑顔に満ち溢れ楽しんで参加していた姿が今でも浮かんできます。友達と意見がぶつかったり、思うようにいかないことがあると涙が出てしまうこともありましたが、自分たちで話し合い解決できるようになったり、苦手な事にも諦めずに挑戦できるようになり、日々逞しさを増すみんなに成長を感じました。入園前は、新しい場所での新しい生活に不安そうにしていたみんなも、4月から小学生です。小学校へ行っても、こども園で経験したことを活かして素敵なお兄さんお姉さんになってくれることを楽しみにしています。いつも元気いっぱい、笑顔が素敵なみんなが大好きです。

最後になりましたが、保護者の皆様には今日まで本当に温かく見守って頂きました。至らないことや力不足から、ご迷惑をおかけしたことなどあったかとは思いますが、子どもたちがこうして無事卒園を迎えることが出来たのは、保護者の皆様のご協力があったこそだと感じています。本当にありがとうございました。

これから忙しくなるとは思いますが、またこども園にも遊びに来てください。元気なみんなに会えるのを楽しみにしています。

松下由菜、河崎悦子